

キトラ古墳と高松塚古墳に眠るのは誰だ

2021年10月25日

我部山 民樹

1. はじめに

発掘調査により、築造時期は高松塚古墳が藤原京期の694年～710年の間で、キトラ古墳は7世紀末～8世紀初頭頃と推定されているので、被葬者はいずれも、ほぼ同時に亡くなられた方と考えられる。高松塚古墳から出土した海獣葡萄鏡が704年の遣唐使船で持ち帰ったものとされている。またキトラの壁画は高松塚の壁画より唐の影響が少ないことから、遣唐使船の帰着以前にキトラ古墳は築造されたとされる。

従いキトラ古墳の被葬者は694年～710年の間に、高松塚古墳の被葬者は705年～710年の間に死没された方と考えられる。

この地方で発見された古墳は2,000くらいあると言われているが、石室の壁面にキレイな絵が描かれている古墳はキトラ古墳と高松塚古墳くらいである。

ほぼ同時期に築造されたとされるマルコ山古墳（天武天皇の皇子・川島皇子の墓との説がある）の石室はキトラ古墳と同じような構造の石棺式石室（横口式石槨）であるが、壁画は描かれていない。

壁画は高松塚古墳がキトラ古墳より先に発見されているが、築造はキトラ古墳が先とされている。

高松塚古墳とキトラ古墳の壁画が偶然に発見（*1）されたことを考慮すると、壁画が描かれた古墳がもっと出てくるだろうと想定される。

*1. 壁画発見のキッカケ

キトラ古墳	高松塚古墳
高松塚の発見で、愛好家等によりポスト高松塚探しが始まっていて、近くに住む農家の上田俊和氏等の自称「7人の古墳侍」の方々が、村が鉄の棒を差し込み石室表面の崩壊した凝固岩の痕跡を探しているうちに、発見したことが発端である。その後関係者の方々の御尽力で盗掘穴よりスコープで壁画の存在を確認した。そして1998年3月5日に発掘を開始した。上田氏等は今なお、新たな壁画を発見すべくロマンを求めて古墳探しを続けられているようだ。	高松塚古墳の発掘調査は、1972年3月1日から発掘が開始された。村民の関武氏等の「飛鳥古京顕彰会」の方々が近代化の開発から日本のふるさとの文化を守るための活動をしており、働きかけにより、関係者の尽力で遺跡の保護とそれによる観光開発を行うことになった。それまで高松塚古墳で偶然に切り石が見つかったが、石室があるかもしれないとのことで、関氏らによる発掘の働きかけで、発掘を開始し、開始後2週間目に盗掘穴より壁画を発見するに至った。その後、石室の壁画は日本画の大家の平山郁夫画伯らにより原寸大で模写され、それを閲覧できるようにした。壁画を保護するために石室を封印したが、30年後に開放したときにカビによる壁画の汚れが見つかったので、石室は解体され、壁画の

	カビなどの汚れを除去した上で嚴重に保管されている。今なお、関氏等は新たなロマンを求めて古墳探しを続けられているようだ。
--	---

2. 飛鳥の遺跡

👉平城京

👉桜井市

藤原京



天武天皇陵

持統天皇陵

文武天皇陵

刑部皇子？

高市皇子？

👉吉野宮

3. 想定される被葬者

渡来人説、天武天皇ゆかりの皇族説、豪族説がある。

天文図が描かれた緯度は 37～39 度と推定されており、長安、高句麗の都・平城や百済の都に近いとされていて、キトラ古墳の被葬者は中国や朝鮮半島にルーツのある人と考えることができるとの説がある。しかし、大陸に精通した皇族や豪族が高度な知識と技能を有する渡来人を活用して築造した可能性は当然ながら否定できない。

一方、天武天皇ゆかりの皇族説である。キトラ古墳は北緯 34 度 27 分 04 秒、東経 135 度 48 分 19 秒に位置している。天武天皇陵もキトラ古墳の近くにあり、同じ経線上にある。さらに、その後でのちの持統天皇の時代に建設された藤原京、高松塚古墳、中尾山古墳（文武天皇陵？）さらには、近江（今の滋賀県）にある天智天皇陵なども、すべて同一線上に存在している。

これは単なる偶然ではなく、「王宮の南西側に王族の墓を設ける」という中国の制度にならい、意図的に高貴な身分にいた人々（皇族か）のお墓を並べたと考えられている。この線は「聖なるライン（ゾーン）」と呼ばれている。従い被葬者が天武天皇ゆかりの皇族であるという説は非常に有力である。

石室に壁画の描かれている両古墳がこの聖なるラインに築造されていることを考慮し、藤原京期の 694～710 年に死没した人物の中から被葬者を想定することになる。

(1) キトラ古墳

・キトラの名前については、古墳の南側の小字「北浦（きたうら）」が訛ったものといわれるが、鎌倉時代ごろの盗掘者が「亀と虎が描かれていた」と人に話したため「亀虎」という重箱読みとなったという説のほうがロマンに満ちている。古墳が明日香村阿部山集落の北西方向にあることから、四神で北を司る玄武（亀）と西を司る白虎（虎）から亀虎（キトラ）と命名されたとの説もあるが、いささかうがち過ぎとも思われる。

・築造された時期は、薄葬令（はくそうれい、身分に応じて墳墓の規模などを制限した勅令）が発布された 646 年以降である。民を苦しめる巨大古墳の築造を禁じたもので、キトラ古墳は小規模であり、薄葬令の発令の後に築造されたと判断できる。

壁画などにみられる唐の文化的影響が高松塚古墳（出土品の銅鏡より 705 年以降の造営とされる）より少ないことから遣唐使が日本に帰国（704 年）する以前の 7 世紀末から 8 世紀初め頃（藤原京期開始の 694 年から遣唐使が帰国する 704 年までの間）に作られた古墳であると見られている。

被葬者は年代などから、天武天皇の皇子、あるいは側近の高官の可能性が高いと見られている。埋葬物は盗掘され何も残されていないが、骨片と歯牙が見つかった。

(2) 高松塚古墳

・発掘調査で藤原京期（694～710年）に造営されたことが判っている。

そして発掘された海獣葡萄鏡が698年没の長安の高官の墓から発掘された海獣葡萄鏡と同じ鋳型で作られたことが判り、704年の遣唐使船（その前は667年）で持ち込まれたと特定され、被葬者は705年～710年（平城京に遷都するまでに死没した人物とされる。706年に薨去した刑部皇子は政権No. 2であり、律令制度を制定したので、唐より海獣葡萄鏡を贈呈された人物としても相応しいとされ、最有力視されている。

(3) キトラ古墳と高松塚古墳の比較

	キトラ古墳	高松塚古墳
場所	奈良県高市郡明日香村の南西部、阿部山の斜面	奈良県高市郡明日香村（国営飛鳥歴史公園内）
構造	二段築成の円墳である。上段が直径9.4m、高さ2.4m、テラス状の下段が直径13.8m、高さ90cm。	直径23m（下段）及び18m（上段）、高さ5mの二段式の円墳である。
内部構造	石棺式石室（横口式石槨）で、天井は家形になっている。石室は凝灰岩の切石を組み合わせて作られており、内部は幅約1m、長約2.6m、高さ約1.3m。奥壁・側壁・天井の全面には漆喰が塗られ、壁画がほどこされている。	石室の寸法は南北の長さが約265cm、東西の幅が約103cm、高さが約113cm（いずれも内法寸法）であり、大人2人がかがんでやっと入れる程度の狭小な空間である。横口式石槨（よこぐちしきせっかく）と呼ばれる系統に入る
天井の形	屋根型	平天井
石室の石材	凝灰岩（二上山産）	凝灰岩（二上山産）
石材の数	18	16
築造時期	遣唐使が日本に帰国（704年）する以前の7世紀末（694年）から8世紀初め頃（7世紀末～704年）694～704年間	発掘調査により藤原京期（694～710年）と確定された。海獣葡萄鏡より、705年以降と分かる。従い705～710年間
壁画の四神像（朱雀、青龍、玄	白虎が北向き（珍しい）	白虎が南向き（一般的）

武、白虎)		
天文図	星空の様子を精密に描いた東アジア最古の「天文図」	星空をデザインした簡略化「星宿図」
四神像、日月像以外の東西南北の絵	獣頭人身十二支像	男女群像
副葬品や出土品	盗掘されて何も残っていない。 木棺の痕が残っている。火葬はしていないことが判る。	盗掘されたが、残されていた。 石室に安置されていた棺は、わずかに残存していた残片から、漆塗り木棺であったことがわかった。石室は鎌倉時代頃に盗掘にあったが、副葬品や棺の一部が残っていた。出土品は漆塗り木棺の残片のほか、棺に使われていた金具類、銅釘、副葬品の大刀金具、海獣葡萄鏡、玉類（ガラス製、琥珀製）などがある。中でも隋唐鏡の様式をもつ海獣葡萄鏡と、棺の装飾に使われていた金銅製透飾金具がよく知られる。
人骨、歯	コメカミの咀嚼筋とつながる骨片と歯牙も発見され、分析により40歳代～60歳代の大柄な骨太の頑丈な男性と判定された。	人骨 40代～60代の初老の人物とされる

一説に、被葬者は右大臣の安倍御主人（あべのみうし）であったと推定し、その根拠として、古墳周辺の一帯が「阿部山」という地名（奈良時代には既にそのような呼ばれていた）であることを挙げている。他にもその蓋然性が極めて高いと考え支持している専門家もいる。そのほかに阿部御主人を第一に挙げ、皇族では弓削皇子も考えられるとした専門家もいる。安倍御主人は703年4月、右大臣従二位、69歳で没した（『続日本紀』『公卿補任』）。

また、他に天武天皇の皇子・高市皇子という説を主張している専門家もいる。百済から渡来した百済王昌成（しょうじょう）を被葬者に挙げる専門家もいる。決め手がないのだろうか？

4. キトラ古墳について

(1) 古墳の概要

○キトラ古墳の墳丘

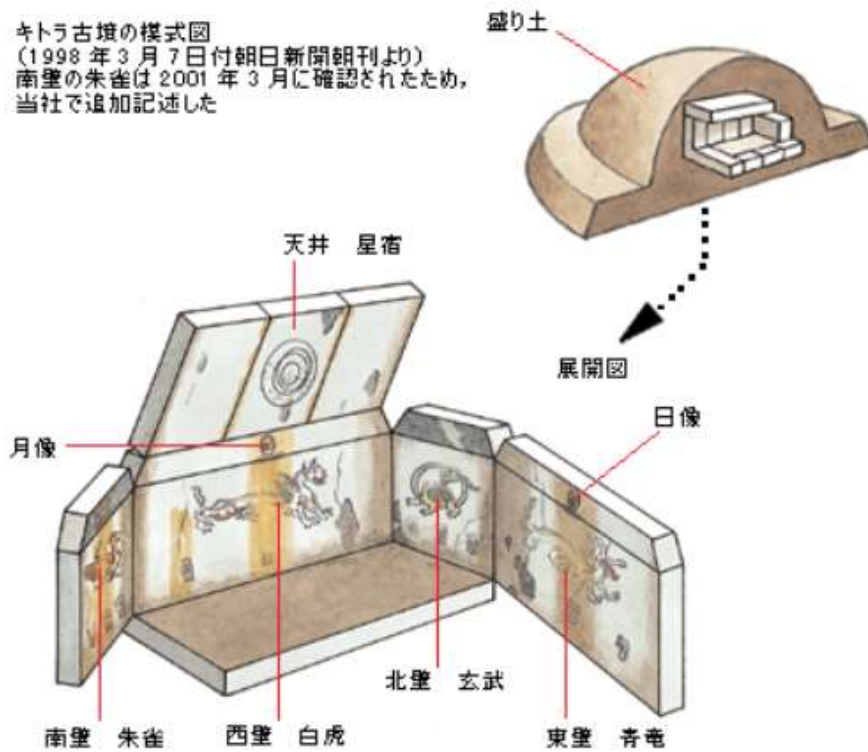


鉾掘調査中のキトラ古墳



○模式図

キトラ古墳の模式図
(1998年3月7日付朝日新聞朝刊より)
南壁の朱雀は2001年3月に確認されたため、
当社で追加記述した



○獣頭人身十二支像



青龍



朱雀



白虎



玄武



○天井の天文図

現存する東アジア最古の天文図



この星の位置等をもとに天文学者が研究した見解では、観測した時期が西暦300年代と紀元前65~40年頃という二つの説がある。どちらの説も観測場所は、北緯34度付近の長安の辺りとしている。

このほかに、高句麗の都や百済の都に近い観測場所だとの説もある。

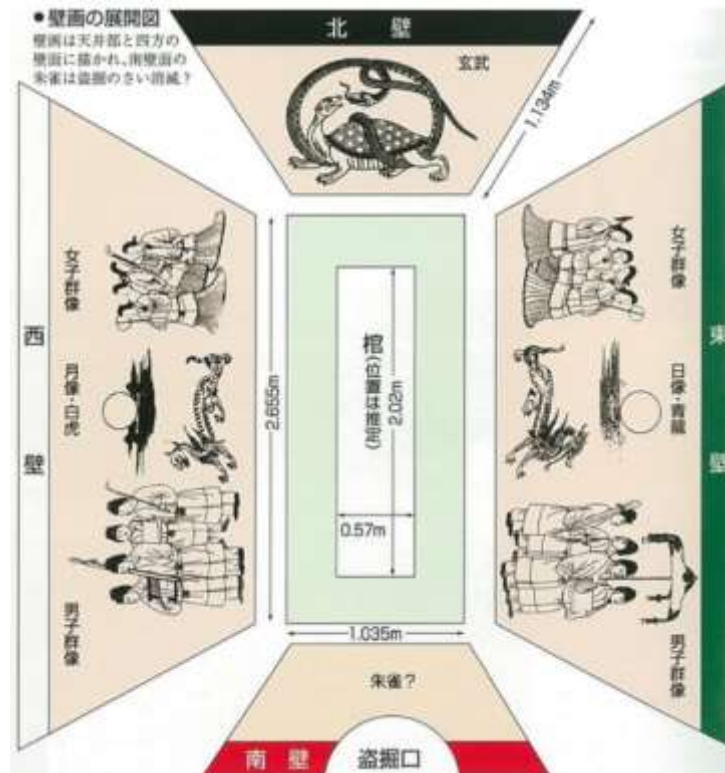
天文図は石室内の天井石に塗られた漆喰（しっくい）の上に、中心を同じくした大きな三つの円と、北西にずれた円の計四つの円が描かれた。その円の中に350個以上の6mm程度の金箔（きんぱく）を貼り付け、その金箔を朱線でつなぎ、74個以上の星座を表現した。

5. 高松塚古墳

○墳丘



○石室模式図



○壁画



月像



日像



玄武



白虎



青龍

西壁女子群像



西壁男子群像



東壁女子群像



東壁男子群像



○天井の星宿図

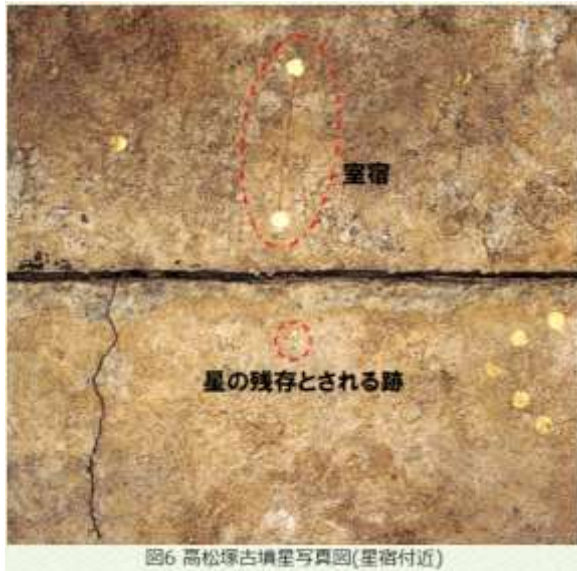


図6 高松塚古墳星写真図(室宿付近)



図1 高松塚古墳星宿図

木棺は漆塗りで、金銅製鐙座金具、金銅製六花形飾金具、銀環付金銅製六花形飾金具などの飾金具が取り付けられていたと考えられる。大刀に関連するものでは、金線で直線とS字文を象嵌した鉄地銀張金象嵌帯執金具や、刀装具、刀身の断片がある。銀装の大刀は全面を黒漆で仕上げたもので、正倉院の大刀にも匹敵する優美なものであったと考えられる。玉類では琥珀玉やガラス小玉、径1mmほどのガラス粒がある。主な出土品は、平成30年に重要文化財に指定された。

○出土品

海獣葡萄鏡



重要文化財展示 高松塚古墳出土「海獣葡萄鏡」



出土品

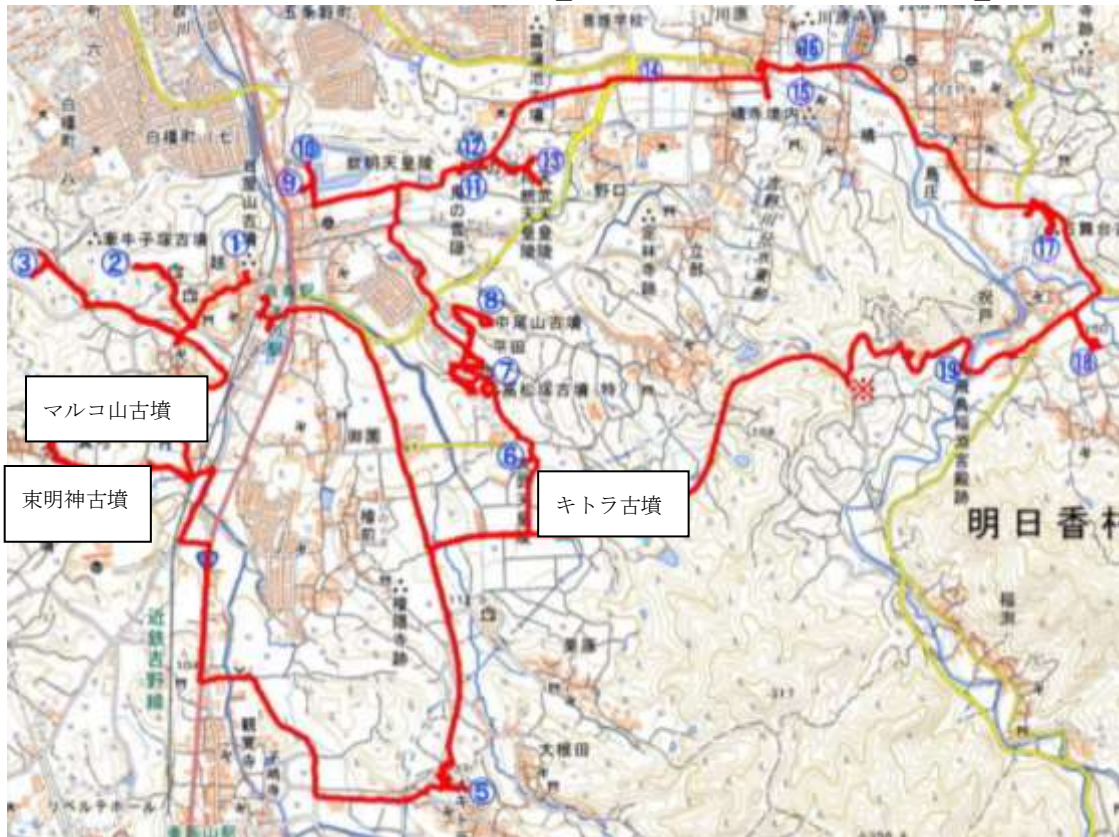
6. 飛鳥付近の主な古墳

安倍丘陵（桜井市）



平城京

桜井市



番号	古墳名	古墳の形式	石室の石室	被葬者
1	岩屋山古墳	方墳または八角形	横穴式石室	斉明天皇
2	牽牛塚子古墳（けんごしづかこふん）	八角形墳	石棺式石室	斉明天皇
3	真弓鐘子塚古墳（まゆみかんすずか）	円墳	横穴式石室	
4	マルコ山古墳	六角形	凝灰岩の切石で作られた横穴式石室	（天智天皇皇子、川島皇子との説がある。
5	キトラ古墳	円墳		
6	栗原塚穴古墳	円墳		文武天皇陵と比定されている
7	高松塚古墳	円墳		
8	中尾山古墳	八角形	横口式石室	文武天皇陵として有力視されている
9	吉備姫王墓			
10	梅山古墳（うめやま）	前方後円墳		欽明天皇陵
11	鬼の雪隠			欽明天皇の親族、臣下を埋葬するもののほか、大型の古墳の埋葬者のための副葬品を埋納するために築造されたものもあると考えられる。
12	鬼の俎（まないた）	同上		同上
13	野口王墓古墳	八角墳		第40代天武天皇・第41代持統天皇の陵に治定されている。
14	亀石			諸説あるが、不詳
15	橘寺			聖徳皇太子御誕生所
16	川原寺跡			
17	石舞台古墳			蘇我馬子？
18	都塚古墳	方墳	横穴式石室 二上山産凝固岩製の刳抜式家形石棺	？
19	飛鳥稻淵宮殿跡			
	鳥谷口古墳（葛城市）	方墳	石棺式石室	大津皇子？
	東明神古墳（高取町）	八角形墳	石棺式石室	草壁皇子 専門家が有力視している
	岡宮天皇陵（高取町、宮内庁が治定）			草壁皇子 宮内庁が治定
	田原西陵（奈良市）			志貴皇子

7. 被葬者の特定に際して

(1) キトラ古墳

藤原京期（694～710年）に死没した皇族や豪族は約50名で、その内、古墳に入るに相応しいと思われる身分の人は次の12人である。

皇族7名 文武天皇、高市皇子、弓削皇子、刑部皇子、葛野王、新田部皇女、大江皇女

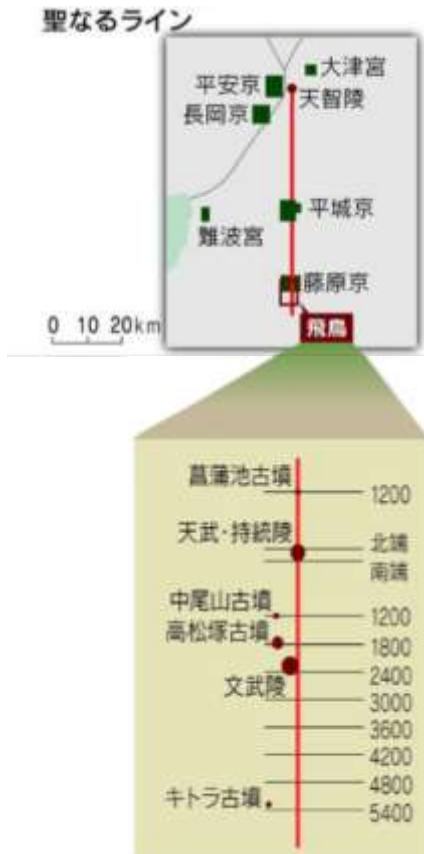
豪族4名 大伴御行、多治比嶋、安倍御主人、紀麻呂

渡来人1名 百濟王善広

被葬者の条件は

- ・キトラ古墳から出土したコメカミの咀嚼筋を繋ぐ骨片と歯より、大柄で骨太の頑丈な男性と判定されている。死没年齢は40歳代から60歳代。（骨古学の片山一通氏）
- ・高松塚から出土した被葬者の歯やあごの骨から40代から60代の初老の人物と推測されている
- ・聖なるゾーンの古墳の被葬者は天皇や皇族である。（猪熊兼勝氏）

中国の方位思想で聖人は南面から天下を治めたので、南を重視していた。天皇と皇族の墓は藤原京の南のセンターラインに集まっている。いわゆる‘聖なるゾーン’である。両古墳ともこの‘聖なるゾーン’にある。



- ・高松塚から出土人骨の推定年齢が 46、7 歳で死亡したと見られる忍壁皇子に近い。
- ・高松塚の副葬品、人物像の服装などより刑部皇子とする専門家が多い。
- ・高松塚の出土品の海獣葡萄鏡は 698 年没の中国の高官の墓からの出土品と同じ鋳型である。中国の法令に倣って大宝律令を制定した刑部皇子に贈与されたものとする説がある。
- ・天文図は北斗七星を中心に廻っていて、天皇を中心に世界が廻ることを示している。皇室の礼服には北斗七星の図柄が使われている。この六星に「吉野の盟約」に賛同した六皇子（草壁皇子・大津皇子・高市皇子・河嶋皇子・忍壁皇子・芝基皇子）のうちの天武天皇の皇子（草壁皇子、高市皇子、刑部皇子、川島皇子）が被葬者なら全てがうまくおさまると提唱者の猪熊兼勝氏が語っている



- ・キトラ古墳の所在地は大字・安倍山である。キトラは阿部御主人（あべのみうし）の墓であり、安倍山（奈良時代にすでに安倍山の字名があった）と呼ぶようになったという説がある。
- ・安倍清明の先祖とされる右大臣・阿倍御主人は星座などに精通している陰陽道の元祖である。
- ・竹取物語で「安倍のみうらじ」がかぐや姫に求められて「火鼠の皮衣（ひねずみのかわごろも）*2」を唐人に依頼して入手するが、阿倍御主人はこのモデル（5人の求婚者全てが天武天皇・持統天皇に仕えた人物）であり、このようなことができた。キトラ古墳と類似の壁画のある古墳が存在する海外の事情に精通していた。

*2 火鼠の皮衣

火鼠の毛皮

火鼠の毛皮で作った、火に焼けることのない衣(ころも)。実際には石綿をさしていい、南方の火山にすむ火鼠の毛で織ったとして名づけたもの。火浣布(かかんぶ)をいう。

竹取物語

かぐや姫の美しさを聞いた男たちが、次々とかぐや姫に求婚していく。しかしかぐや姫に結婚する気はなく、「私がリクエストしたものを持ってきてくれたら結婚を考える」と言う。かぐや姫に求婚した男の1人は「阿部のみむらじ」という右大臣。「阿部のみむらじ」にかぐや姫は、火を付けても全く燃えることのない火鼠の皮衣を持ってくることを条件とする。

皮衣を探すために、唐（中国）の商人にまで接触していた「阿部のみむらじ」。条件を受けてから数年の月日が経って、ようやく火鼠の皮衣を手に入れることができたようだ。果たしてそれは本物だったのだろうか。

中略

世間の人々は、「阿部の大臣が、火鼠の皮衣を持っていらっしゃったので、かぐや姫とお住みになられるそうですね。ここにいらっしゃるのですか。」と尋ねる。ある人が、「皮を火にくべて焼いてみたところ、めらめらと燃えてしまったので、かぐや姫はご結婚なさいません。」と言ったので、これを聞いて（人々はそれ以来）、やりとげることができなかつたこと（または張り合いのないこと）を「あへなし」（阿部がないということ）と言った。

（作者は不詳だが、平安時代前期から中期にかけての貴族・歌人で『土佐日記』を著し、『古今和歌集』の選者となった紀貫之という説が濃厚だそうだ。）

- ・キトラ古墳に棺が置かれていたことが明らかになっている一方で、自らの考えで703年に火葬に付された持統天皇の太政大臣であった高市皇子も696年に火葬に付されていたとすればキトラ古墳の被葬者ではありえない。しかし

仮定の話であって、この時期の他の天皇や皇族の墓の調査で火葬だったかどうかの確認をし、火葬の傾向を調べる必要がある。

- ・文殊院西古墳の被葬者は安倍御主人の父親・安倍内麻呂の墓というのが有力であり、石室の作り方がキトラと似ていることから、キトラは安倍御主人の墓とする説もある。しかし、文殊院西古墳は安倍丘陵（桜井市）にあり、安倍氏一族のお墓がここらに集中している。阿部御主人の墓だけが、安倍丘陵から離れた場所でしかも皇族の古墳が集中している聖なるゾーンに存在するとした場合、この説には違和感があり、納得し難い。納得のいく合理的な説明が必要であろう。
- ・キトラ古墳の四神図と十二支獣頭人身図は中国文化を凝縮したものであるだけでなく、その天文図の緯度はキトラ古墳より北の北緯 37.6 度で百済の都などの位置に相当する。
- ・キトラ古墳に棺が置かれていたことが明らかになっている一方で、自らの考えで 703 年に火葬に付された持統天皇の太政大臣であった高市皇子も 696 年に火葬に付されていたとすればキトラ古墳の被葬者ではあり得ない。

仮定が多すぎるので、この時代の古墳の更なる発掘による火葬の解析結果を待つ必要がある。

安倍御主人の父・阿倍内麻呂（安倍倉梯麻呂）の墓に比定される文殊院西古墳の石室は精緻な伝統的横穴式である。キトラ古墳の石室はこれに極似しているので、安倍御主人の墓であるとの説。

○文殊院西古墳

文殊院西古墳は、古墳時代終末期の 7 世紀後半頃の築造と推定される。日本列島の横穴式石室のうちでは最も精巧な切石石室であるとして重要視される古墳である。また阿部丘陵では巨石墳として本古墳のほかにも谷首古墳・カラト古墳などが知られるほか、周辺の遺跡では大型建物跡も検出されており、古代氏族の安倍氏との関係性が指摘される。特に本古墳については阿倍氏の有力首長墓であることは確実で、被葬者を安倍内麻呂（649 年死去）とする説が有力視される

8. キトラ古墳の被葬者の候補者リストのまとめ

人物名	704 年以前に死没	奥歯より死没 40 歳代～60 歳代	コメカミの咀嚼筋より大柄で骨太の頑丈な男性	藤原京の南の‘聖なるゾーン’に有り、天武天皇ゆかりの皇族説	その他	結果

文武天皇 (もんむてんのう)	× 707 年没	× 享年 25	○	○	× 天皇陵は八角形なので除外。	×
高市皇子 (たけちのみこ)	○ 696 年没	○ 享年 43	○ 武官であり、屈強なイメージに合う	○ 太政大臣	・ 武勇で名をさせた武官	○
弓削皇子 (ゆげのみこ)	○ 699 年死没	× 享年 20代	○	○	—	×
刑部皇子 (おさかべのみこ)	× 705 年没	○ 享年 40代	○ やわな文官のイメージでこの条件にそぐわないか？	○ 太政大臣	・ 文官のリーダー ・ 大宝律令を完成。海獣葡萄鏡を贈られるのにふさわしい。 ・ 歴史書を編纂 × 高松塚の被葬者は 705 年以降に死没であり、刑部皇子が被葬者として有力な候補である。	×
葛野王 (かどどのおおきみ)	× 706 年没	○ 享年 37	○	× (天智天皇の孫) 正四位上式部卿		×
新田部皇女 (にいたべのひめみこ)		—	×	○		×
大江皇女 (おおえのひめみこ)		—	×	○	—	×
大伴御行 (おおとものみゆき)	○ 701 年死没	○ 享年 57		× 大納言	× ・ 皇族ではない ・ 竹取物語のモデル	×
多治比嶋 (たじひのしま)	○ 701 年死没	× 享年 78		× 左大臣公卿		×
安倍御主	○ 703	○ ?		× 右大臣	・ 陰陽師で当代	○ ?

人（あべのみうし）	年死没	享年 69 死没年はギリギリだが、文官であり、屈強なイメージはしない			一の豪族 ・遣唐使の接待等で海外事情に精通 ・キトラは大陸の墓のモチーフが多く使われている ○？・皇族ではないが、古墳が安倍山に位置する。特別扱いの可能性？ ・竹取物語のモデル ・安倍晴明が子孫	
紀麻呂（きのまろ）	× 705 年死没	○ 享年 47？		× 大納言		×
百濟王禪広（くだらのこにしぜんこう）	× 705 年死没	享年不明		×	664 年から難波に居住。	×

9. 最後に

（1）キトラ古墳

キトラは盗掘されているので埋葬品がない。出土した僅な人骨と歯からは享年 40～60 代の大柄で骨太な男性と推定されている。

この時代の天皇陵は八角形であり、キトラは円形なので、天皇陵ではない。また文武天皇の陵墓・桧隈安古岡上陵：ひのくまのあこのおかのえのみささぎ）は文武天皇陵として治定されているし、八角形の中尾山古墳の被葬者は文武天皇が有力と歴史家が唱えている。

いずれにしても文武天皇は除外する。

キトラ古墳が字・安倍山にあることから被葬者は安倍御主人（あべのみうし）とする説もある。

安倍御主人は壬申の乱における大海人皇子（天武天皇）方の功臣。天武朝から政治に携わると、持統・文武天皇朝で高官に昇り、晩年には右大臣として太政官の筆頭に至った。最終冠位は右大臣従二位。享年 69 歳であり、人骨の推定年齢からギリギリだが入っている。しかし父親・安倍内麻呂を始め一族の墓地は桜井市の安倍丘陵にある。安倍御主人だけが、安倍丘陵から離れた飛鳥の聖

なるゾーンに葬られたとするなら、それなりの合理的な説明が必要だが、見つからない。鮮やかな壁画の石室に葬られたのは皇族でなく、大陸の文化に精通した豪族か渡来人に限定されるとしたら、高松塚古墳の被葬者も皇族以外となるが、ふさわしい人物が思い浮かばない。

結論として被葬者は皇族の高市皇子と刑部皇子とするのが合理的だ。刑部皇子は705年以降に死没しているので除外される。

従い、高市皇子がキトラ古墳の被葬者に相応しいということになる。

天武天皇の皇子として壬申の乱で武勇を馳せて、天武天皇即位後は政権 No.2 であり、重要な役割を果たした。死没したのが996年で、死没年齢43歳？で骨や歯牙から推定された条件に合致している。それに大柄かどうかは分からないが、丈夫で骨太で頑丈なイメージが他の候補者のだれよりも近い。恐らく大柄だったのだろう。

(2) 高松塚古墳

被葬者の候補者はキトラ古墳の12名と同じ人物である。

高松塚古墳(694~710年と特定されている)より発掘された怪獣葡萄鏡と同じものが696年死没した中国の高官の墓に納められているので、704年の遣唐使船で日本に持ち込まれた事が分っている。従い、高松塚の被葬者は①705年以降に死没していることが条件だが、刑部皇子は706年死没なので合致している②海獣葡萄鏡を唐より贈呈されるのに相応しい人物であることだが、天武天皇の皇子として、また政権 No.2 として大宝律令の制定等に活躍した刑部皇子はそれに相応しい人物である。③死没年齢が40代~60代だが、刑部皇子は40代で死没していて合致している。④高松塚の副葬品、人物像の服装などより被葬者が刑部皇子とする専門家が多い。

これらの条件に刑部皇子は合致していて、刑部皇子以外にこれらの条件に合致している人物はいない。高松塚の被葬者は刑部皇子である。

参考資料

- ・ファミリーヒストリー「飛鳥の大宇宙~キトラに眠るのは誰だ~」
- ・アナザストーリー「飛鳥美人「発見 秘められた村民の悲願」
- ・ウィキペディア

以上